

2015年度 ICU新入試対策

2015年度ICU一般入試は、2014年度入試から以下のように変更される。

2014年（一般入試）

- 1.リベラルアーツ学習適性（旧）（70分 80点）
- 2.人文科学（70分 80点）
- 3.「社会科学」または「自然科学」（70分 80点）
- 4.英語（リスニングを含む）（約90分 90点 内リーディング60分）



2015年度（一般入試 A方式）

- 1.総合教養（新）（80分 80点）
- 2.「人文・社会科学」または「自然科学」（80分 80点）
- 3.英語（リスニングを含む）（約90分 90点 内リーディング60分）

大きな変更点は以下の3点である。

- 1.人文・社会科学が統合され4教科型から3教科型に
- 2.自然科学選択者は人文科学の受験が不要になった
- 3.リベラルアーツ学習適性から放送型の総合教養に変更された

筆者はICU OBで、1999年よりICUの入試情報サイト（BUCHO.NET）を運営しており、ICU対策講座も実施しているが、その経験を踏まえて、新試験の対策方法を論じていきたい。

<対策1> 変更点を踏まえた対策

英語（リスニングを含む）、人文・社会科学（または自然科学）の2教科で高得点を狙う

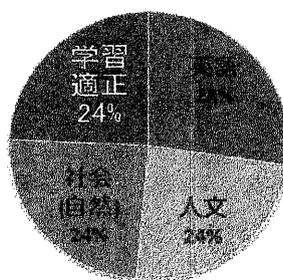
今回新たに加わった総合教養は、旧リベラルアーツ学習適性がそうであったように、問題内容が完全には公表されていない。よって、まずは確実に出題される既存科目（英語、人文・社会科学／自然科学）の対策を重点的に行うべきである。これら既存教科に関しては、人文・社会科学が統合され、その試験時間が70分から80分に変更されたという細かな変更はあるものの、試験形式等は踏襲される予定である。また、4教科型から3教科型になったことで、1教科あたりのウエイトは大きくなった。よって、過去問等から対策が十分に可能な既存教科（英語、人文・社会科学／自然科学）の演習をしっかりと行うことが、確実な得点アップに繋がる。また、4教科から3教科へと科目数が減少したことにより、英語や人文・社会科学／自然科学などで合格に必要なボーダーラインが上昇する可能性も否定できない。

<対策2> 英語

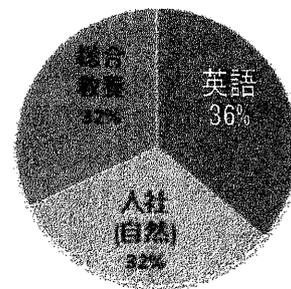
比重が大幅アップ、特にリスニング対策が重要

ICUは文系の難関私大（早慶上智ICU）の中では、英語の比重が比較的低い大学であった。昨年度まで、入試全体に占める英語の比重は約28%で1/4強であったが、今年度から36%で1/3強になり、大幅に英語の重要度が増している。各種ランキングが示すように、ICUは元々英語の意識が高い学生が集まりやすい大学であり、難関私大を併願する受験生の多くは英語のレベルも高い。その中で、英語のウエイトが増し、また最大の配点であるということは、以前にも増して、英語の出来映えが合否を左右することになりそうだ。文系理系を問わず、併願校においても英語は重視され、ICU入学後も英語は必須であるので、入試対策として、まずは英語に取り組むべきである。

2014年度入試



2015年度入試



また、ICUの英語の特色として、英語の問題の約半分がリスニングであるということが挙げられる（リスニングの配点は非公表だが、過去の合格者の成績等から、配点は約半分と推測される）。これは難関私大でも中でも珍しく、リスニングを全面的に実施しているのは、早大の国際教養学部などごく一部の学部に限定される。よって、多くの私大受験生はリスニングの対策が必ずしも万全ではない。ICUを志望する受験生は、英語リスニングの対策をしっかりとっておくことが、大きなアドバンテージとなり得る。

伝統的にICUのリスニングは、TOEFLの形式に類似しており、TOEFL教材（特にPBT/ITP形式）を使っての学習は有効である。また、ICUの過去問も出題形式や出題内容（大学生活をベースとした日常会話や大学での講義など）は概ね一定しているので、ICUの過去のリスニング問題を用いての学習も非常に有効である。

英語リーディングに関しては、典型的な読解・内容一致問題（Part I）が中心であるので、英語の受験勉強をしっかりとしている人にとっては、さほど心配はない。ただしPart IIには300-400wordsの英文の中に20もの空所があるという、やや特殊な空所補充問題があるので、

Part II に関しては演習を重ねておくとよい。

<対策3> 人文・社会科学

過去問演習が有効

人文・社会科学は今年度から統合されるが、問題形式等は従前の形が踏襲される予定である。大学入試としては非常に長い論文を読んだ上で、約 40 問の問題に答える形式で出題されてきた。2014 年度の問題文の長さは、人文、社会どちらも約 10,000 文字、B5 用紙で 10 枚程度であった。試験時間は 70 分から 80 分に変更され、若干のゆとりができるが、それでも回答に要する時間を考えると、15 分～25 分程度で約 10,000 文字の学術的文章を読み切る能力が必要となる。高 1 や高 2 の段階では、まずは読書の習慣を付け、新聞や新書等を継続的に読むなど、日本語の論文を読む訓練を行うとよい。その際、読んだ文章の要約をノートなどにまとめてみると、短時間での内容を把握や、文章読解の訓練となる。すでに高 3 で試験が控えている場合、あるいは高 2 などで ICU 志望が決まっている場合などは、ICU の人文・社会科学の過去問の演習を始めた方がよい。

人文・社会科学の特徴は、ICU の教授らによって、本文が試験のために書き下ろされたものであるということである。その他の大学の入試の現代文や小論文等の資料は、ほとんどの場合、既存刊行本や新聞記事等の文章を引用したものであるが、ICU では、入試のためだけに、教授らが試験用の文章を毎年作成している。よって、ICU の人文・社会科学は ICU の先生方から、未来の ICU 生へのメッセージという側面も持っており、内容の充実した論文が多い。また、毎年様々な教授らが論文の執筆を担当しているので、人文・社会科学の過去の論文をたくさん読んでみると、多様な学問分野を試験対策としてカバーできると同時に、固有の出題形式にも慣れることができる（経験上 10 年分以上の過去問を解くと出題が一巡し、得点力が一気に上がるようだ）。

<対策4> 自然科学

標準的な問題が多いハイスコアゲーム 自然科学選択者は有利？

2014 年度入試まで自然科学選択者も、人文科学の試験が課せられていたが、2015 年度入試からは自然科学のみで受験できるようになった。リベラルアーツカレッジ、あるいは教養学部系統の大学の中で、理系の学問もできるというのは、ICU の大きな特徴である。英語のできる理系の大学生は、就職や院進学など多方面で需要がある。一方、文系のイメージの強い ICU で、理系の優秀な学生をいかに確保するかというのは長年の課題であり、入試では理系の学生は若干有利と思われる傾向がある。

筆者が主催する BUCHO.NET の調査では、2014 年度の社会科学選択者の倍率が約 2.9 倍であったのに対し、自然科学選択者は 2.4 倍であった（2013 年度はそれぞれ 2.9 倍、2.6 倍）。2014 年度までの自然科学の入試は、数学、物理、生物、化学の 4 教科から 2 教科を選択する

形式であり、この形式は踏襲される予定である。また例年通りであれば、4 教科は同一の冊子に印刷されており、当日問題を見てから、回答する 2 教科をその場で選択することが可能である。自然科学の問題は、標準的な問題が多く、一般的な受験勉強をしていれば対応できる問題が多い。

よっていかにミスをしなないかというハイスコアゲームの要素がある。また、他教科と同様に全問マーク方式である。計算問題に関しても数値記入ではなく、計算結果がいずれかの選択肢の中に書かれている。よって全部を計算しなくても、概算をして、短時間で問題を解けるようにしておくといよい。

<対策5> 総合教養

様々なアプローチが可能な全方位型試験

総合教養はリベラルアーツ学習適性に代わって 2015 年度から導入される試験である。その形式は冒頭に 15～20 分ほどのミニ講義を聴き、それを元に 40～45 問程度の問題に答えるというものである。試験時間は 80 分で、問題冊子は講義の放送終了まで見ることができない。問題は 4 部構成で、Part I は放送に直結した問題、Part II は人文科学、Part III は社会科学、Part IV は自然科学に関連した問題がそれぞれ 10 問程度出題され、Part II, III, IV の問題の前には、放送と関連した各分野の短い論文が掲載される。旧リベラルアーツ学習適性と同様に、非常に幅広い出題範囲が広い。よって満点を狙うような試験ではない。また、読解・聴解の要素が強い。文系の受験生の場合は、まずは人文・社会科学の過去問をよく研究して、それらの出題をしっかりと押さえることだろう。その上で、数学や理科を、高校の授業で習った範囲だけでも復習しておくといよい。一方、理系の学生は、人文科学の試験が必須でなくなったことを含め、読解の要素がこの試験に盛り込まれているので、素早く論文に書いてある内容等を把握するために、人文科学の過去問を見ておいた方がよい。いずれにせよ、およそ全ての教科が出題範囲となり得る試験であるので、全てに対応するというより、併願校や選択科目等によってそれぞれ違ったアプローチが可能な試験と言える。まずは自分の選択している科目に関してはきちんと答えるという姿勢でよい。また、対応関係を完成させる問題など、旧リベラルアーツ学習適性の要素も含まれているので、過去の出題を研究しておくといよいだろう。

なお筆者の主催する Web サイト (BUCHO.NET) では学内取材や過去の傾向に基づいた、放送付きの総合教養対策問題を多数用意している。また、その他教科も 1988 年の公開以降のほぼ全ての ICU の過去問の閲覧・演習が可能である。興味のある方は下記 Web サイトを参照されたい。

[\[http://icu.bucho.net\]](http://icu.bucho.net) (「BUCHO」で検索！)